



# 五小だより

12月号

令和6年11月29日  
国分寺市立第五小学校  
042-322-0045  
校長 齋藤 晃



五小ブログ



五小ボランティア

## 大人の視点 子どもの視点

副校長 小野 光典



左の絵をご覧ください、見えた物を説明して下さい。

「こうもりが飛んでいる」「墓が立っている山がある」「木が2本立っている」「黒猫が一匹いる」「鎌を持った人がいる」大人からは、おそらくこのような説明が返ってくると思います。

ところが、子どもに見せると、「ドクロ」や「骸骨」などの答えが返ってくる場合があります。と言われても、見えませんね。絵を逆さにして見ると、不思議なことに「ドクロ」が見えてきます。

小学校学習指導要領 体育編、低学年の解説には、「易しい運動遊び」「易しい場」「易しいゲーム」など、たくさんの易しさが登場します。これは、低学年の子どもたちに合わせた学習の大切さを示しています。以前体育科の研究でお世話になったある校長先生に言われた言葉をずっと大事にしてきました。「本当にそれは、子どもにとって易しい運動になっているのか。大人の立場から見て易しいだろうと考えた運動ではないのか」子どものことを本当に理解しようとして、学習を考えているかとの金言です。上の絵で例えてみると、ドクロにワクワク・ドキドキしている子どもに、いくら黒猫の可愛さをアピールしても、その子のハートをつかんだり納得させたりすることはできない、ということになります。低学年の子どもだけではなく、中学年の子どもや高学年の子どもにもあてはまることです。

子どもたちは、スーパーマンです。大人の発想にないことをしたり考えたりしませんか。それが、子どもという存在であり、そこがまた面白いところだと思っています。私たち所謂大人も、子どもの頃はスーパーマンだったはずです。何か理解して欲しい時、今一つ伝わらないことにイライラせず、目の前の子どもが何を見ているのか、どこに不満を感じているのか、少しだけ子どもの視点に立って考える余裕をもちたいものです。

さて、本校のスーパーマンたちによる『国分寺市市制施行60周年記念 令和6年度音楽会』が15日、16日に開催されました。代表委員が中心となり、掲げたスローガンが【心にひびく音楽をかなでよう】です。体育館練習が始まってから、全学年の練習を毎日少しずつ見させてもらいました。たった数日でもどんどん変化していく様子に、子どもたちの力を改めて感じたところでした。オーディションの結果やりたい楽器ができなかった子、演奏することに苦手意識をもっている子、人前に立つのが得意ではない子、一人一人の思いや向き合い方は異なり、たくさんの思いが詰まった音楽会、心に響かないはずはありません。

また、子どもたちの力に加え、音楽専科の飯塚先生や2年生の音楽科講師の松井先生を中心に、担任の先生方が子どもたちの視点に立ち、指導はもちろん、アイデアを出しながら取り組んでくださいました。専科・せんだんの先生方は体育館装飾や会場設営、受付等、教育アドバイザーの茂呂先生には、気が付かない・気を回せないことに気付きサポートしていただき、講師の先生方は時間割変更に対応しながらの授業、事務室は物品購入・環境整備、植木先生・スクールサポートスタッフさん方は各学年の演目掲示作成や手紙の配布、前田先生・藤井先生は1年生のサポート、給食室はバランスの取れたおいしい給食で元気をくれました。

そして、最後に、保護者の皆様、衣装のご準備ありがとうございました。お子さんのフォローもたくさんしていただいたことと思います。改めて感謝申し上げます。

こうしてたくさんの支えがあってこそ音楽会や生活が成り立っていることを感じられる五小の子どもたちに育って欲しいとも願っています。

さあ、本校のスーパーマンたちは、今後どんな力を見せてくれるのか楽しみです。

